

2022年度 活動報告書



みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

目 次

報告書の発刊に当たって（巻頭言）	1
1. 企業との連携体制構築	2
(1)水島ガス株式会社へのヒアリング	2
(2)荻原工業株式会社へのヒアリング	3
(3)三菱石油株式会社(現：ENEOS 株式会社)へのヒアリング	3
2. 大学・高校との連携体制構築	4
(1)研修旅行受け入れ実態	4
①総数	4
②JICA の受け入れ（2022 年 8 月 7 日）	6
③香川県三木町立三木中学校の受け入れ（2022 年 10 月 27 日）	8
(2)岡山大学実践型社会連携実践事業	11
① 岡山大学 岩淵泰	11
②ミズシマ・マネジメント Lab.代表 古川明	12
(3)古城池高校プラットフォームとの連携	14
3. 生涯学習・地域連携	16
(1)縄文土器展を開催して	17
(2)干拓と埋立による倉敷から水島地域の成り立ち	19
4. 情報発信	
(1)観光庁事業	21
(2)FM くらしき	23
(3)活動交流会	26
資料 みずしま滞在型環境学習コンソーシアムについて	31

報告書の発刊に当たって（巻頭言）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

会長 萩原 邦章

持続可能な地域づくりを担う人材育成を目的に「みずしま滞在型環境学習コンソーシアム」を 2018 年 3 月に立ち上げ、5 年が過ぎました。2020 年に始まった新型コロナウイルスのパンデミックは、水島における環境学習の取り組みにも大きな影響を与えることとなりましたが、2022 年度は修学旅行や研修が執り行われるようになってきました。

そういった中で、今年度は主に以下の活動を実施することができました。

1. 観光庁「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」による研修プログラムの整備（ホームページ、動画、案内看板、水島ガッツリ MAP、モデルツアー）
2. 地域サロンの開催
3. 岡山大学地域連携型授業の実施
4. 大型の研修受け入れを実施（香川県三木中学校）

観光庁事業によって研修プログラムを整備し、研修プログラムをより良いものにする地図や看板、ホームページを整備することができました。観光庁事業は、地域の街づくり組織や企業、教育機関などと協力をしながら進めることができました。今後は、整備したツールを基に、受け入れ人数の増加を進めていきたいと考えています。

水島を学びのフィールドにする活動は多くの人を巻き込みながら広がっています。今後、皆さんのご協力をいただきながら、活動をより強固なものにしていきたいと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

1. 企業との連携体制構築

みずしま財団 塩飽敏史

本分野では、2021 年度に実施した企業向けアンケート調査の結果を受けて、企業との関係性をより深めることを目的に、企業へのヒアリングを実施しました。企業ヒアリングにあたっては、「みずしま地域カフェ」として実施し、コンソーシアムメンバーだけでなく、地域の方も参加することで、多様な視点での意見交流・関係性の構築につなげることを目指しました。

企業ヒアリングの成果は、『水島メモリーズ』（水島ガス編、萩原工業編）として、2 冊発行されています。

(1)水島ガス株式会社へのヒアリング

日時：2022 年 7 月 19 日（火）

場所：ミズシマ・パークマネジメント Lab.

内容：当日は、3 名の OB と 1 名の現役職員が参加 し、水島ガス株式会社の成り立ちから、戦後の復興の中でオフガスを利用した都市ガスの供給体制の整備過程のお話など、水島地域の成り立ちと非常に密接にかかわっていることを改めて知ることができました。また、8 月 10 日には、本社を訪問、社長に直接お会いし、地域とともにあり続けることを目指す姿勢を伺うことができました。

（みずしま財団主催「みずしま地域カフェ」と共催）



OB や現役職員との交流

(2)萩原工業株式会社へのヒアリング

日時：2022 年 10 月 11 日（火）

場所：萩原工業株式会社 本社

内容：地元水島発祥で、ブルーシートの生産量国内トップを誇る萩原工業株式会社を訪問し、萩原邦章会長自ら、その歴史とこれからの将来像についてお話いただきました。地元産のイ草を使ったゴザの生産から始まり、その技術を活かして原材料を石油化学の繊維に転換した流れは、水島の工業発展を象徴するものと言えます。コンソーシアムの会長でもある萩原会長は、学びを通じた地域づくりを理解いただいております、さらなる連携を確認することができました。

（みずしま財団主催「みずしま地域カフェ」と共催）



萩原工業本社前での記念撮影

(3)三菱石油株式会社（現：ENEOS 株式会社）へのヒアリング

日時：2022 年 11 月 2 日（水）

場所：ミズシマ・パークマネジメント Lab.

内容：三菱石油株式会社の OB である古川明コンソーシアム 副会長のコーディネートで、OB お二人から、水島コンビナート建設の初期に進出してきた同社のお話を伺うことができました。操業の安全確保に関する法律も未整備な中で、重油流出事故なども経験しながら、世界でもトップレベルの安全性を獲得するまでになった過程のお話は、非常に示唆に富み、過去の教訓を持続可能な社会につなげる水島の学びにぜひ生かさせていただきたいと思いました。



藤原哲男氏によるお話の様子

2. 大学・高校との連携体制構築

(1) 研修旅行受け入れ実態

① 総数

みずしま財団 藤原園子

2022 年度の受け入れ実績は、11 団体 544 名だった。このうち、コンビナートクルーズを利用したのは、5 団体 233 名だった。昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響のため、キャンセルになった団体もあった。一方で、行先変更として倉敷市水島を選んだ事例も複数あり、最終的には昨年度の 4 団体 48 名の受入実績に比べ大幅に増加する結果となった。

現状の問合せや申し込みは、学校の先生から直接連絡が入ることもあるが、岡山県観光連盟の教育旅行掲載ページを見て、電話や FAX、メール等にて県外の旅行会社から直接連絡が入ることが多い。

今年度は、真庭市と岡山市と倉敷市と西粟倉村がメンバーである「岡山 SDGs 未来都市連絡協議会」の広域連携の動きがあり、（一社）真庭観光局が中心となって進めたプログラム開発に協力した。

また観光庁事業で 3 つのモデルツアーを実施し、参加者の意見や要望等を把握した。今年度の実績を下記する。

2022 年度受け入れ実績

	利用団体	人数	備考
4/26	立命館守山高校（滋賀県）	28	東武トップツアーズ滋賀支店
8/7	JICA 中国（留学生）	13	
9/11	大阪公立大学（大阪市）	13	観光庁モデルツアー①干拓の歴史半日コース
10/21	立命館慶祥高校（北海道江別市）	4	JTB 北海道
10/24	凱風館塾生（兵庫県ほか）	17	観光庁モデルツアー②亀島山地下工場を中心とした 1 日コース
10/27	三木町立三木中学校（香川県）	215	
11/21	永島学園出雲西高校（島根県）	87	JTB 山陰支店
11/24	尾道市常任統計調査員研究協議会	45	（株）おのみちバス

12/9	長崎県立松浦高校（長崎県）	67	JTB 長崎支店
12/10	SDGs 体感モニターツアー	34	主催（一社）真庭観光局 海と陸の つながり（倉敷市・真庭市）
12/24	水島コンビナート夜景クルーズツアー	21	観光庁モデルツアー③コンビナートクルーズコース
	合計	544	11 団体

② JICA の受け入れ(2022 年 8 月 7 日)

地域理解プログラム「瀬戸内海で学ぶ、産業と暮らしと環境」開催レポート

JICA 中国 平田由香利

8 月 7 日（日）照りつける日差しの下、岡山県は倉敷市水島にてフィールドワークを実施しました！このプログラムは岡山大学環境生命科学研究科に所属している JICA 長期研修員を対象に 2020 年から始まり、今年で 3 回目の実施（受け入れは、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム）。今年もアフガニスタン、マラウイ、ネパール等、研修員 13 名の参加があり、多国籍なメンバーでの実施となりました。環境に関する研究を行っている研修員が、今回のフィールドワークを通して何を学ぶのか。熱中症対策、感染対策を万全に、さあ出発です！

【本当の豊かさって何？】

岡山駅を出発し、まず向かった先は水島展望台。バスから降りて見渡す風景は、「真っ青な空」の下に広がる水島コンビナート。数々の煙突と工場に研修員も圧倒されていました。少し視線を横に移すと、人々が暮らす住宅地。こんなに工場地帯と密接していて大丈夫なのだろうか・・・と、「今も人が住んでいるけど大丈夫？」等、研修員から率直な質問がありました。

今回のプログラムを企画、同行して下さったみずしま滞在型環境学習コンソーシアム事務局の（公財）水島地域環境再生財団（みずしま財団）理事・研究員 塩飽敏史氏より、戦後からの高度経済成長に伴う水島地域の歴史について説明があり、かつてはこの地域は「真っ黒な煙」が広がっていたとのこと。工業化による県民の豊かな暮らしを目指して、水島地域の開発・工場誘致を進めた結果、多くの人々の公害被害が発生。漁業や農作物が豊かだった地域が、公害によって暮らす人々や生業に多くの被害をもたらしたとのことでした。塩飽氏より研修員に「本当の豊かさって何でしょうか」という問いかけに、研修員一人ひとりが真剣に考えている様子でした。

【工場からガスのような異臭が・・・】

続いて向かった先は、工業地帯に隣接している松江地区。町中を歩いていると少しだけガスのような異臭が・・・。工業地帯から流れてくる異臭を感じ不安そうな研修員でしたが、塩飽氏に案内されて向かった先は大気汚染測定所。測定したデータはネットを通じて倉敷市の環境監視センターに送られるとのこと。人々の暮らしを守る行政の対策について学ぶと共に、実際に住んでいる人たちの苦勞を少し感じた研修員でした。

【日本遺産指定史跡の水門を見学！】

引き続き松江地区を徒歩で回り、江戸時代以降の干拓によって農業用地が造成された場所を見学。干拓用の水門（水島地域で唯一の日本遺産指定史跡）や、堤防跡を実際に目で見て、かつては海だった場所から干拓地が出来た歴史を学びました。更に、歴史民俗資料館にも訪問。展示されている道具や写真を見て、江戸時代に開墾をしていった人々の生活を垣間見ることが出来ました。展示されていた道具はプラスチックが全く使われておらず自然の資源を活かしたものばかり。町中を散策中、川沿いで見た大量のプラスチックごみを思い出し、便利なプラスチックで物を作りすぎた現状を考えさせられました。

【海から見る水島コンビナート】



山から、地上から、そして最後は海から水島コンビナートを見学しました！

研修員 13 名クルーズ船に乗り込み、水島港を出発。クルーズ体験が初めての研修員もあり、終始携帯を片手に写真を撮って大はしゃぎ！船上からは、迫力のある大きな原材料受け入れ・払い出し用の機材が動く姿や、目前に広がる様々な製造設備を経て、

人々の生活に欠かせない製造品が造られている様子を見ることが出来ました。みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長の古川氏より、各企業が敷地内に 30% の緑地をもたなければいけないと、企業の説明とあわせて環境保全への取り組みについても説明がありました。

【参加した研修員からの感想】

今回のフィールドワークでは、工業化により人々の暮らしを豊かにした経済発展の一面と、それに伴って公害被害が発生し、人々の健康に影響をもたらした一面の「光と影」を学ぶことが出来ました。

今回参加した研修員から以下のようなコメントがありました！今回学んだ事、感じた事を自国に戻ってから活かしてくれることを期待しています。

- アフガニスタン研修員：「公害に対する日本の取り組みを実際に目で見て、学ぶことが出来て大変興味深かった。今回学んだことを、自国に戻ったら共有したい」
- ネパール研修員「船上からみたクルーズツアーはとても印象的だった」

③香川県三木町立三木中学校の受け入れ(2022 年 10 月 27 日)

みずしま財団 藤原園子

2022 年度は、大人数の来訪者の受入体制が整ってきた。きっかけとなったのが三木中学校の受入である。

学年主任の先生から、年度初めの 4 月にみずしま財団に連絡があり、平和学習で亀島山地下工場を見学できないかと問い合わせがあった。7 クラス同時には見学が不可能のため、フィールドワークを 7 つに分けて同時進行で実施することを提案した。

水島という町の歴史と現在のまちづくりから「平和と人権」について考えることとし、実施のはこびとなった。夏休み中に学年主任の先生が現地下見、2 学期に事前学習を教材「水島の公害と未来」を使用して実施し、10 月 27 日に本番を迎えた。

■実施した 7 つのコース (7 台のバスに分かれて、ガイド 1 名ずつ添乗、70 分)

- 1 号車 地域の人とのつながりコース (水島こども食堂ミソラ♪)
- 2 号車 鳥の目になってまちを見てみようコース (水島展望台)
- 3 号車 空気の汚染を監視する仕組みを見てみようコース (監視測定局)
- 4 号車 トップレベルの廃棄物処理コース (水島工業地帯の廃棄物処理施設)
- 5 号車 まちのにぎわいをつくりだすコース (水島の市民参加のまち)
- 6 号車 亀島山地下工場の見学コース (亀島山地下工場跡)
- 7 号車 自然災害の歴史に学ぶコース (千人塚)

■当日の流れ

- 9:00 本日の学びの説明 動画「みずしま物語」(10 分)視聴
- 9:30 フィールドワーク出発
- 10:40 会場に戻る、トイレ休憩
- 10:50 振り返りシート記入(自分の体験)
- 11:10 全体で発表・共有
- 11:40 振り返りシート記入(他の人の体験)
- 11:50 終了、バスへ移動
- 12:00 水島中央公園で昼食

平和と人権を学ぶ

水島というまちが、学びの題材です

①事前学習

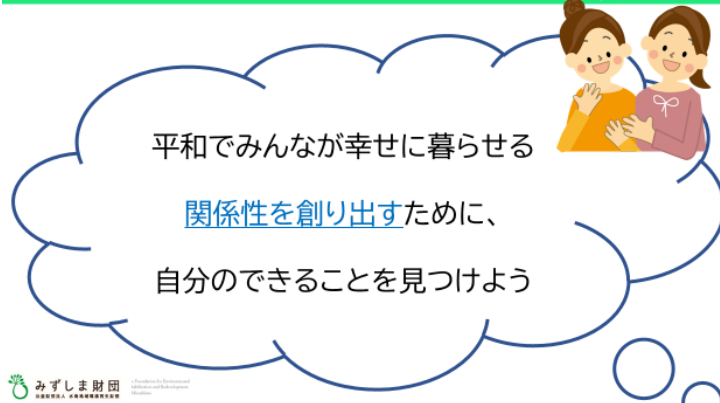
「水島の公害と未来」

歴史から学ぶ

②本日、現地見学

7つのテーマ

人から学ぶ



2号車 鳥の目になってまちを見てみよう
(水島展望台)



7号車 自然災害の歴史に学ぶコース (千人塚)



全体学習（導入・振り返り）

■まとめ

平和学習で学ぶ平和を、戦争がない状態だけではなく、人と人にある関係性と広くとらえ、個人が大事にされ、尊重されること、さらにその関係性を創り出すための学びとして実施し、新しい可能性を広げることができた。みずしま滞在型環境学習コンソーシアムにとって、地域の方にガイドを担って頂き、7台のバスを同時に受入ができたことが自信となった。

来訪した中学生にとっては、水島のまちに照らし合わせて、「自分の住んでいる三木町だったらどうか？」を考えるきっかけになったようだ。

担当の先生からは、「香川県から比較的近い水島で平和や環境、人権について学べたことは生徒だけでなく、私たち教員集団にとっても大変貴重な経験だった。7つのコースに分かれてのフィールドワークを提案していただいたことで、水島という町の歴史や現在のまちづくりを教材とし、平和で皆が幸せに暮らせる関係性のあり方について、多面的・多角的な視点で考えることができた。校外学習後はLGBTQについての学習をしたが、その時にも水島で学んだことを振り返りながら学ぶことができ、とても良い流れで繋ぐことができた。」とコメントが寄せられた。

(2)岡山大学実践型社会連携実践授業

①水島パーキングデイ

岡山大学 岩淵泰

9月16日「水島パーキングデイ」が、ミズシマ・パークマネジメント Lab. (MPMLab.)の主催で開催された。

パーキングデイとは、車中心から人間中心の社会への転換を訴えるサンフランシスコ発祥のまちづくり手法である。地域住民は、道路や駐車場に椅子やテントを建て、交流を行い、顔見知りを増やしていく。本を読んだり、コーヒーを飲んだり、居心地の良い空間づくりを目指すものだ。

岡山大学からは、岩淵泰副センター長の教養科目「倉敷水島まちづくり論」から8名の学生が参加した。授業日程は、7月20日、9月15日、16日、22日に行われた。7月20日は、水島地区のまちあるきをし、前回までのパーキングデイの振り返りを行った。9月15日は、本学にて（公財）水島地域環境再生財団（みずしま財団）から、公害から環境再生への取り組みが学生たちに紹介され、水島地区のまちづくりを学んだ。

9月16日は、賑わいづくりをテーマに水島商店街にて午後から設営の準備を行った。16時から19時まで水島地区のまちづくりを考えるタウンミーティングを開催した。

まず、水島商店街振興連盟会長の藤原義昭さんから水島商店街の現状をうかがった。近年、若い起業家や飲食店の出店が増え始めたそうだ。その理由は、岡山市や倉敷市の中心市街地に比べて、格段に家賃が安くなってきたからだそうだ。

続けて、古城池高校 OG（香川大学と福山市立大学）の学生が、水島商店街の活性化プランを紹介した。その内容は、戦後の商店街の歴史が学べる博物館構想、水島エリアの飲食店やイベントをまとめたホームページ、地域住民による公園活用のワークショップなどだ。学生は、まちをきれいにし、水島商店街が持つ夜のまち（怖い、危ない、閑散としている）というイメージを払しょくしたいとプランを提案した。寂れた商店街をレトロ感ととらえなおした若者の発想に筆者は新しさを感じた。

最後に、（一社）MASCの未来の移動手段など、様々な話題提供があった。実際に地域に出ることで得られる学びとして、学生からは「貴重な経験になった」「ぜひまた、水島に行きたい」といった感想があった。後日、オンラインにて、水島地区の魅力や活用方法など学生は自由に議論をした。



パーキングデイの様子

詳細は、山陽新聞デジタル「岡山まちづくり探検」「水島商店街復活を支える若い力 パーキングデイから見る新しい街づくり」 2022年9月23日を参照。

②パーキングデーの開催（2022年9月16日）

ミズシマ・パークマネジメント Lab. 代表 古川 明

通算4回目となるパーキングデー。

1 去年はコロナ禍の影響もあり、代替として、屋内でタウンミーティングを開催するに止まりましたが、今回は2年ぶりにアウトドアで開催することになりました。

今回のテーマは、～水島の過去・現在・未来～です。

開催の頃は、コロナ第7波の余波もあって、大がかりな設えは行わず、また、飲食を控え、地域への告知範囲を限定したことから、

こじんまりとしたタウンミーティング的色彩の濃い内容となりましたが、会場設営に関しては、前回、設営を手伝ってくれた中心人物2名が抜けたこともあって、参加してくれた岡山大学の学生さん達の手も借りながら、苦戦を強いられる結果となりました。



会場入り口での記念撮影

こうして始まった設営も無事に終了、登壇者の皆さまや来場を想定していた大学生・高校生その他、関係者も集まってくれて、予定通り、会は口火を切りました。

最初の登壇者は、水島商店街振興連盟の藤原会長です。掲げたテーマの内「過去・現在」に照準を合わせ、賑やかだった頃の商店街や、その後の街の衰退について、エピソードなどを交えながら詳しく紹介頂きました。続いての登壇者は、地元古城池高校OGのお二人（井手さん、玄馬さん）。

二人からは、街づくりに向けた「公園の活用」や「SNS発信」による水島の広報戦略などに関する力強い提言がありましたが、その提言を聞いて、触発された所為か、会場の学生さん達から次々に質問が飛び出し、質疑応答で会場が熱くなる一幕もありました。



株式会社インプリージョン代表取締役
オダギリサトシ氏

そしていよいよミーティングは終盤を迎えることとなりました。

最後のコーナーでは、「未来」編に相応しく「空飛ぶ自動車」をテーマに、東京からオンラインで参加してくれた坂ノ上さん(MAS C="M"i z u s h i m a "A"e r o "S"p a c e "C"l u s t e r の事務局長)に夢のある話を語って頂きましたが、「未来」編に相応しく、スケールの大きく、2025年の大阪万博でお披露目がありそうだ、などトリアリティーたっぷりの話題も満載でしたので、参加者一同、近未来が、直ぐそこまで来ていることを肌で感じつつ、夢見る気分でトークショーの閉幕を迎えることとなりました。

～トークショーが終わってからは、夕闇迫るレトロな水島の街をバックに、地元出身の女性歌手が、持ち前の美声を披露してくれたり、会場の一面に展示された縄文土器(近くにお住いの作家の兵頭さんが持参してくれた土器)を囲んで話の輪が生まれる等で、パーキングデーに華を添えて頂きました。～



水島商店街振興連盟 藤原会長と
岡山大学 岩淵泰先生



古城池高校 OG の井出さん



夜のパーキングデー



縄文土器作家の兵頭さん

(3) 古城池高校プラットフォームとの連携

コンソーシアムに高校生を！

岡山県立倉敷古城池高等学校 教諭 平松 恵子

まず、2018年のコンソーシアム設立時からずっと本校に学びの機会をいただいていることを心から感謝したい。学校の活動は知識注入型の活動になりやすい。探究学習でさえ調べ学習が主となりがちだ。しかし、コンソーシアム（コンソーシアム以前の活動も含めて）から提案していただく活動には、それらとは質的な違いがある。

1つ目はトータルな経験だ。まずは、現場を見ること、そして、校種や年齢を越えて課題について共に考えること。昨年の「真庭のバイオマスツアー」では、見学に加えて、環境と自分とが繋がっていると実感できる講座を真庭高校の生徒と共に受けることができた。海ゴミや海の生き物調査では、名前も存在すらも知らなかった生物との出会いがあり、倉敷南高校や県外の高校と調査や意見交換する機会もあった。そして特筆すべきは、専門的な知見に生徒達が触れる機会を持てる点だ。専門の先生方のお話を伺い、学問分野の最先端を知り、世の中で必要とされている最適解の探し方に触れられる経験は得がたいものだ。最後は報告の場である。年度末のシンポジウムでの報告は、振り返って意味づけしなければ、日常に紛れ、埋もれて、自分でさえも気づけなくなってしまう意義を結晶化する機会が得られる。地域の皆さんの前で報告することで、多くの学びが「自分事」となっていく、生徒がぐんぐん成長する姿は驚くほどだ。それら一連の学びがトータルに提供していただけることのすばらしさを毎年実感している。事務局の「みずしま財団」の方々をはじめ、関係の皆さまからの心添えがあつてのことだと感謝している。

2つ目は、生徒の「幸せ」につながる学びである点だ。地域活動をしている人は孤独を感じにくいと言われているが、生徒も同様だ。一緒



ウミナナ類とツボミガイの個体数調査。岡山県版レッドデータブック2020で準絶滅危惧種に指定されているウミナナやツボミガイが、通生海岸にはたくさん生息している。



磯での生物調査の様子。岩をひっくり返すだけでたくさんの生物が見つかる。

に調査し、成果を分かち合い、聞いていただけることで、一人ではないということを実感する。自我を形成する思春期まっただなかの彼等にとって、他とは違う「私」を証明することは重要なことだが、他と違うということは、「孤独」だということでもある。ところが、地域で受け入れられた生徒には、はっきりと見て分かるほど心の余裕が生まれる。学校と家庭と地域の中に自分を置くことで心のスペースが生まれるのかもしれない。

海の現状を共に見た、こども食堂で一緒に作ったカレーライスを食べた、自分の提案や感想を聞いていただけた、パーキングデーで空間利用について考察した、等々。学校とは違う生々しい現実が生成する「場所と時間と思い」を共にした記憶が、参加者を一人にさせない。後から考えると、それらは、海の未来に対する専門家からの警鐘だったり、福祉の最前線で戦うNPOの支え合いへの誘いだったりするのかもしれない。しかし、意味を知るのは後でもかまわない。「一人ではない」ことが、次の一步を踏み出す原動力になる。分かち合う時間こそが「幸せ」だからだ。

最後は教員の学びとなる点だ。本校では、学区外に住む教員も多く、地域のことにについて知識も経験も乏しい。学びの主体が生徒であるのは自明のことだが、教員の成長や多様性も重要な側面だ。近代化に伴って置かれた「学校」には価値ある教育を公平に提供する使命がある。しかし、教育は、機械による製品の製造ではない。看護の「ヒューマンケアリング」と同様に、教育においても、両者が共に成長することが求められる。地域に出て行った生徒の思いと、伴走する教員との響き合いによって多様な結果が生じる。しかも、それは一瞬のことではない。長い、長い時間を生徒と共に過ごしなが、生徒が「ああ、わかった！そうだったのか！」というときに起こる空気の弾み、発見したり、成長したりするときのとてつもないパワーを全身に浴びるときの幸せ、それらが教員を作っていく。地域の方々に見守られながら、生成する事態と共に成長すること、その意味で、教員も学びの主体なのだ。

今後も、生徒と教員の多様な学びを支えていただけるコンソーシアムの存在に感謝しながら活動していきたい。



パネルディスカッション



水島の歴史の発表



水島・藤戸バスツアーの発表

3. 生涯学習・地域連携（地域サロン）

ミズシマ・パークマネジメント Lab.代表 古川 明



地域サロンを開催しているミズシマ・パークマネジメント Lab.

昨年11月に、これまで実施してきた「水島学」を継承し、「地域サロン」に模様替えしてその第一歩を記すことになりました。その目的は、水島や近郊にお住まいの方々をミズシマ・パークマネジメントLab.（以下、MPMラボ）にお呼びして、それぞれの方から専門的な知識や特技・ご趣味などを、水島にお住まいの方々にご紹介することを通じて、参加くださる方々に、地元水島のことを、もっと知ってもらおうというところにあります。

今回は、2022年11月に開催した縄文土器作家 兵頭百華さんによる「縄文土器展」と翌年2月に開催した、倉敷とことこライター 眞鍋忠義さんによる「干拓と埋立による倉敷から水島地域の成り立ち ～土木技術者の視点からみる郷土史～」をご紹介します。

(1)地域サロン（第1回） ～縄文土器展を開催して～

縄文アーティスト 兵頭 百華

ミズシマ・パークマネジメント Lab.(以下 MPM ラボ)の古川代表からお声掛け頂き、2022年11月12,13日にMPMラボにて、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムのプログラムの一環として第一回地域サロン「縄文土器展」を開催しました。



【プログラム内容】

縄文アーティスト・兵頭百華の縄文土器の模写、創作作品の展示とトークショー

【目的】

1. 水島内外の方に縄文の魅力を知って頂くこと
2. 水島内外の方に水島の魅力を知って頂くこと
3. 水島内外の方々が交流できる場を作ること

トークショーでは、来場していただいた方々に、以下のように縄文の魅力や土器制作についてお話しました。

兵頭さんの作品の数々



【縄文の魅力】

私が思う縄文の魅力は、私達が住んでいる日本は、その先祖である縄文人が作り上げた文化で、縄文時代は1万6500年前から約1万3千年間も続いていたということ、そして、時代を通して武器も無い自然の摂理に従った共生型社会であったこと、更には、土器には母なる大地から生まれた同根で等価な命・草木獣虫魚人などの生死再生の祈りが込められていて尊い器であることなどです。

私はその豊かな精神性や高い技術を学ぶために土器の模写から入りました。



兵頭さんとの交流の様子

【土器の制作と土器に込められた思い】

土器の制作の第一歩は、山野から粘土を掘り、砂と腐葉土を混ぜ一年以上発酵させることから始まります。このようにして準備された、母なる大地の肉とも言える土に、祈りや思いを十分に込めて土器作りを行います。

土器の様式は 300 以上とされていますが、どの様式にも共通するものが、「勾玉（まがたま）」文様と「縄」文様です。「まがたま」は全ての命の最初の形で、人間の場合では、胎芽の形に表われています。

一方の、「縄」は命を守る根源的なものでその 2 つを駆使して祈りを土器に表現します。現代の生活では忘れがちな同根で等価な他の様々な生命たちを頂いて、人間は生きていることを体感しつつ、効率より心の豊かさを優先して暮らしていた縄文人の思考や生き方は、今を生きる私たちにとってこそ、とても必要な考え方ではないかと思います。

今回の地域サロンでは、来ていただいた方々に、縄文を通して以上のような思いを伝えることができ、私にとって、とても有意義な時間となりました。

【兵頭さんの感想】

来場された方々には、縄文の魅力を知っていただくことに加え MPM ラボ周辺の水島の素敵なお店や水島の魅力まで知っていただくことができ、当初の目的が叶ったことを嬉しく思います。今後も、引き続き、縄文の魅力を発信すると同時に、水島の魅力も来館される皆さま方にお伝えしていける活動が、MPM の方々と一緒にできれば良いと思いました。

(2)地域サロン（第2回）干拓と埋立による倉敷から水島地域の成り立ち

～土木技術者の視点からみる郷土史～ （2023年2月18日）

倉敷とことこライター 眞鍋忠義

【概要】

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの古川副会長との出会いをきっかけに、本サロンでの発表の機会をいただきました。その発表について報告します。

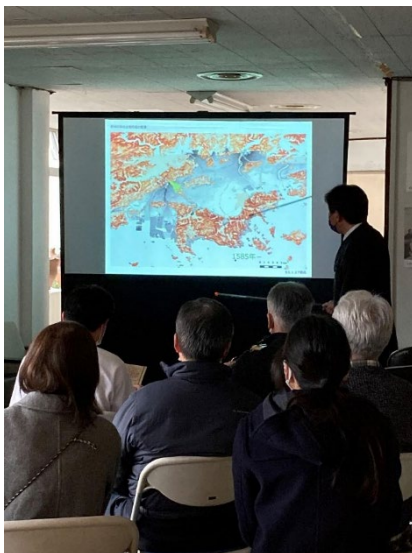


眞鍋忠義氏

1) 倉敷市域で人が暮らしていたエリアの変遷

旧石器・縄文、弥生、古代・中世時代の代表的な遺跡を整理することで、当時の人が暮らしていたエリアの変遷を探りました。

例えば、「おかやま全県統合型 GIS」をみても、古くは吉備の穴海があった時代から、連島等の島々、水島地域では福田にも遺跡が点在し、現在の総社には、特に多くの遺跡があったことを確認することができます。



発表の様子



おかやま全県統合型 GIS

2) 干拓・埋立による土地の形成

倉敷市域から児島湾、岡山平野の土地の形成について、新しい地図表現（長野県林業総合センターが考案したCS立体図と国土地理院の数値標高モデルによる）利用し可視化。

1585年の宇喜多開墾から、1987年の玉島E地区の埋立までの約400年にわたる土地形成を時系列に発表しました。

今後も、この資料を基に年代や範囲等の細部について、更新していく予定です。

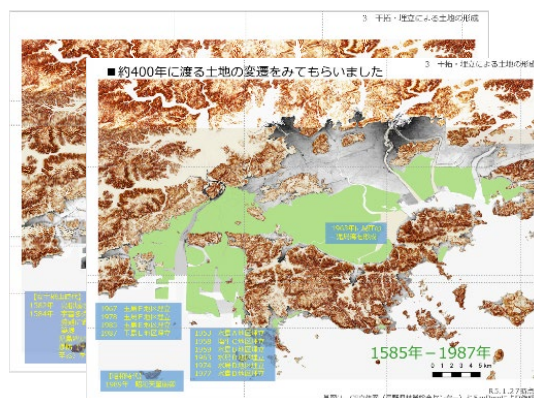
3) 水島の成り立ち（一例）

「水島」という地名の由来・市町村合併・水島臨海鉄道について、概要を発表しました。

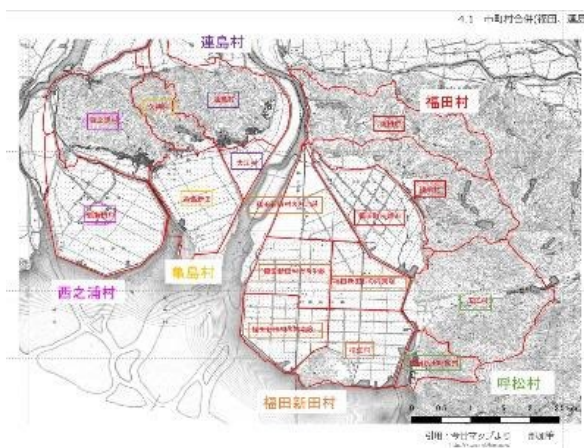
【まとめ】

「今、住んでいる地域や故郷の特徴・特性に興味を持って欲しい」と思い、郷土史に興味をもつ土木技術者として、GIS等の新技術も用い旧石器時代から昭和までの長い期間を浅く発表しました。

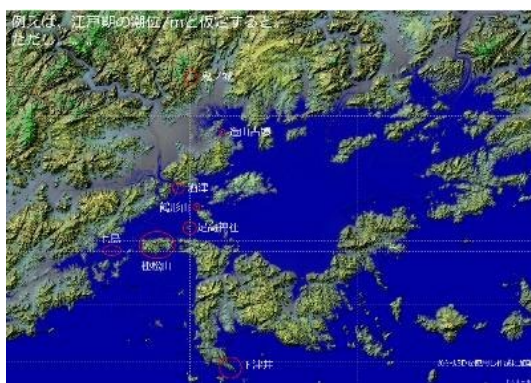
参加者の中には、まだまだGISについて何か分からないといった意見や「干拓・埋立による土地の形成」では、平和的な干拓があったのでは？とする新たな視点などもいただき、土木的な土地形成だけでなく、当時の時代背景等も踏まえた整理の必要性を感じる事が出来ました。幅広い分野の参加者の方々と一緒に、このような光栄な場で発表する機会をいただきありがとうございます。この紙面をお借りし、みずしま滞在型環境学習コンソーシアムおよび参加者の皆様にお礼申し上げます。



埋立までの約400年にわたる土地形成



市町村合併・水島臨海鉄道についての概要



4. 情報発信

(1) 観光庁事業

2022 年度観光庁看板商品創出事業

「近代化遺産」の共生・共創を目指す水島

みずしま財団 林美帆

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムでは、研修の受け入れ体制の整備がめざされていた。そこで、観光庁看板商品創出事業を活用して研修受け入れ体制の整備を行った。

事業の目的

水島・岡山の生業である水島コンビナートを軸に据えて、「大人の修学旅行」のコンテンツを造成する。これまで水島の学びを SDG s に結び付けてコンテンツ開発をしてきたが、水島の学びはユースの教育旅行だけではなく、大人へも開かれるものである。コンビナート形成によって生み出された街の背景や亀島山地下工場を看板商品として、「大人の修学旅行」と銘打って SDG s や人権について学べるコンテンツを整備する。大人ならではの夜の街の楽しみや、産業や災害への視点（ダークツーリズム）の要素を組み込み、コンビナートがあるからこそ現実味を持って実感できる ESG 投資や脱炭素について楽しく学ぶ機会を提供する。

実施した取り組み

- ・水島ガッツリ MAP の作成
- ・案内看板の作成

水島の街中 8 か所に設置。大阪公立大学生と水島まちづくり協議会とワークショップを実施して設置場所を選定した。

- ・動画・WEB サイト・ツアーパンフレット作成

ツアーの情報をまとめてウェブサイトに記載

(<https://sdgs.mizushima-f.or.jp/>)

モデルツアーに帯同し動画を制作（水島 B サイト：YouTube に掲載）

- ・モデルツアーの実施

干拓と水害ツアー（板敷水門）→大阪公立大学・岡山大学生と実施（2022/9/11）

平和と産業ツアー（亀島山地下工場）→凱風館修学旅行で実施（2022/10/24）



コンビナート夜景クルーズと焼肉ツアー→水島通船と実施（2022/12/25）

スナックツアー→ホテル宿泊客をターゲットにした商品を開発検討

作成した看板商品

<看板商品名>

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム SDGs ツアー

- ①公害からの再生を学ぶコース（みずしま資料交流館など）
- ②環境問題と産業の変化を学ぶコース（コンビナートクルーズまたは工場見学）
- ③平和と多文化共生について学ぶコース（亀島山地下工場）
- ④開発と災害・防災を学ぶコース（千人塚・板敷水門（日本遺産））
- ⑤まちづくりに取り組む人たちに会い学ぶコース（まちあるき）
- ⑥子どもの居場所づくりを学ぶコース（子ども食堂）

<所要時間> 2 時間半

<人数> 各コース 40 名程度 コースの組み合わせで 200 人対応可

<価格> 1 人 1500 円（40 人に満たない場合は 1 団体 6 万円）

<対象者> SDGs・人権・環境・平和・福祉の研修 小学生以上

<事業の成果>

- ・ 6 件の新規観光コンテンツの造成・販売開始。
- ・ 水島のツアー認知度向上

（中日新聞東京新聞 2022 年 10 月 30 日、朝日新聞 2023 年 2 月 23 日教育面）

これら開発した看板商品を基盤として、2023 年度から研修の受け入れを促進していく。



(2) FMくらしき

みずしま滞在型環境学習コンソーシアム 副会長 古川明
(毎月、第3金曜日の15:45～16:00)

「みみみずしま財団～エコラボフライデー」というコーナー)

1 去年の11月から、水島財団の提供するFMくらしきの放送枠をお借りして、月1度古城池高校生と一緒に番組に出演させて頂き、高校生達の地域連携活動を中心とした話を、大谷アナの名司会で聞かせてもらっています。出演してくれた生徒さん達は、ラジオ初出演と言うこともあって、番組収録が始まるまでは、いささか興奮気味ですが、一たび、放送が始まると、生徒さん達の表情は一変、弁舌爽やかで澁むことのない澁瀾とした話術を、毎回披露してくれるので、舌を巻くばかりです。是非、お時間ある時に、耳を傾けてみてください。

以下に、これまで2回、出演してくれた吉田由良さんの感想文をお届けします。

～FMくらしきに出演して～

「私は、みずしま滞在型環境学習コンソーシアム副会長の古川さんの口添えにより、学校から指名され、FMくらしき（水島財団提供「みみみずしま財団～エコラボフライデー」という番組）に出演しました。

放送局には、目の前にマイクが何本もあって、スタッフの方がいて、そのスタッフの方々は私のことを知ろうとしてくれてたくさんの質問をなげかけてくれるという、私にとって不思議な光景でした。

2度、出演する機会を頂きましたが、最初の出演では、放送局でご紹介する内容を紙にまとめ、その内容に沿って、上手く伝えようとするばかりを心がけていましたが、2度目は、ラジオはその場にいるスタッフの方々と会話を楽しむことに意味があって、誰かにプ



古川氏と古城池高校の生徒達



古城池高校3年 吉田由良さん

レゼンをする堅苦しい場では無いということが認識できたので、話すべき話題のみをメモして出演しました。

そのように判断したことによって、結果的に、その場にいるスタッフの方々との会話を純粹に楽しむことができて、とても楽しく有意義な時間となりました。

番組収録の中で、特に印象的だったのは、私が「ボランティア・スピリット・アワード」というコンテストに出場させていただいたことがきっかけで、米国ボランティア親善大使に選ばれ、米国授賞式に出席した体験談を話させてもらった時のことです。

当日の番組収録では、私の周りにいたスタッフの方々が興味津々に私の活動内容や、米国授賞式で何を感じたかなどたくさんの質問をなげかけてくれて、30分程度の持ち時間を大幅に超え、2時間近くお話をさせてもらうことになりました。

こんな経験を通じて私は気づきました。話す時にシナリオは必要ない。自分には、自分の言葉でしっかりと伝えることのできる力があるのだということ！

以上のとおり、高校生の立場で、初めてラジオに出演するという貴重な機会を頂き、最初は「ラジオは現代っぽくない」と思っていたのですが、生で温かいアナウンサーの声が聞ける点や話を聞いているだけで微笑むことが出来る、そんなラジオ放送にはまってしまい、今ではラジオが無料で聞けるアプリをインストールして、毎朝必ず聞いて、明るい気持ちで毎日をスタートすることができています。」



ラジオ出演する古城池高校の生徒達



【FMくらしき番組収録の記録】						
～ 古城池高校の活動報告～						
番号	収録日	収録内容			参加生徒数	放送日
	【2021年】					
1	11月6日	こども食堂（高校生企画関連）			2名	11月9日
2	12月14日	フードロス対策関連			4名	12月17日
	【2022年】					
3	1月18日	福田公民館との連携（高校生と考える講座）			4名	1月21日
4	2月1日	海岸の生物・ゴミ調査			4名	2月4日
5	3月9日	ツアープラン（源平水島合戦）			3名	3月12日
6	5月10日	ボランティアスピリッツアワードで米国親善大使に選出されて			1名	5月13日
7	6月15日	探究活動プレゼンテーションアワードでグランプリ受賞			2名	6月17日
		「児島の海岸の生物多様性～指標生物を用いた分析～」				
8	7月13日	「アートであそぼう！～自分だけのうちわづくり～」			3名	7月15日
9	10月17日	二福・四福小学校での学習ボランティアに参加して			2名	10月21日
10	11月14日	ソーシャルバンクとコノヒトカンプロジェクトに参加して（ESS）			2名	11月18日
11	12月13日	高校生ボランティアアワード特別賞受賞（猿田彦珈琲賞）			2名	12月16日
	【2023年】					
12	1月18日	水島・藤戸バスツアーガイド			4名	1月20日
13	2月6日	源平藤戸合戦について			2名	2月17日
14	3月14日	「瀬戸内海 海ごみプラごみ削減フォーラム in おかやま」に参加			4名	3月17日

(3) みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動交流会

みずしま財団 林美帆



活動交流会の様子

日時：2023 年 3 月 5 日(日)13:30－16:30

場所：たびのホテル倉敷水島

〒712-8059 岡山県倉敷市水島

西常盤町 4－2 5

参加者：49 名

<プログラム>

13:30	—	挨拶（倉敷市企画経営室室長 余村誠一郎）
13:35		
13:35	—	<活動報告 1>
14:25		古城池高校生の学びと水島の学びのプログラムの掘り起こし コーディネート 古川明副会長
		1. 水島・藤戸 バスツアー 2. 水島コンビナートクルーズ 3. 水島の歴史～亀島山地下工場～ 4. 公民館講座（書道教室） 5. 僕らが海から学んだこと（生物調査・海ごみ調査）
14:25	—	<活動報告 2>
14:40		水島の過去・現在・未来（岡山大学：赤木陽一さん）
14:40	—	観光庁事業報告（事務局）
14:55		<活動報告 3> 観光庁事業看板作成（大阪公立大学：寺坂舜星さん）
14:55	—	県内外の研修受け入れの実態について報告（事務局）
15:00		
15:00	—	企業アンケート（2021 年度）以降の動き、ヒアリングについて報告（事務局）
15:05		
15:05	—	休憩
15:15		

15:15 16:20	—	活動に参加した生徒・学生のトークセッション 倉敷古城池高校生 井手あづささん（倉敷古城池高校卒業生） 玄馬久那愛さん（倉敷古城池高校卒業生） 赤木陽一さん（岡山大学生） 寺坂舜星さん（大阪公立大学学生） 司会：唐澤克樹先生（倉敷市立短期大学） コメント 岡山大学 岩淵泰先生、ミズシマ盛り上げ隊 野呂家徳さん
16:20 16:30	—	閉会の挨拶（古川明副会長）

活動に参加した生徒・学生のトークセッション

Q1. 地域での活動を実践してみて、当初描いていた水島の街に対する想いと実際に活動してみての水島の街に対する想いに違いはありますか？

- ・公害を学んできた。イメージでは閑散としているように思っていたが、夏休みに来て、ずいぶんとイメージがちがう。とても元気でいい街だった。
- ・活動前は危ない・怖い・近寄ってはいけないといわれるイメージ。盛り上がるのも土曜夜市ぐらい。私がなにも知らなかったからだと思いが付いた。活動を知っていくと前向きのイメージが重なって、いまでは怖いイメージはない。
- ・地域の人との交流がむづかしいと思ってたが、地域交流の効果が大きかった。

Q2 今後の活動について、希望など

- ・子ども食堂で話を聞いた。コロナ禍で開催がむづかしいと聞いた。新型コロナウイルスの影響がなくなれば、活動が活発になればいいと思う
- ・簡単にかかわれるようになったらいいのと思う。
- ・敷居を低くすることが大切。気軽にできる活動ができればと思う。
- ・先輩方が継承を大切にしている。後輩に伝えていく姿勢が必要。卒業した後にも活動がつながってくれればと思う。

Q3 敷居を低くするためには

- ・広く知ってもらえるようにすること
- ・SNS の広報に力を入れる。活動への入口がわかるように QR コードを張るとか、ポスターを張るとか。
- ・素人同士で話し合う感覚。住民の方々と夢を語り合う機会が増えればいいのでは。

Q4 SNSについて

- ・動画の方が文字で読むより簡単。
- ・美味しさがより伝わるのは動画
- ・PRになると専門家になると思う。技術が習得できるなら、やってみたい
- ・文字になると読むのが一苦労
- ・ストーリー機能などで伝わるかなと思う

Q5 楽しかったこと・苦労したこと・工夫したこと

- ・地域について学ぶ上で、地域の人との交流が大切。楽しかった。地域の方々と交流して、地域の人が喜んでくれてうれしかった。狭い地域を学ぶのは文献を探すのがむづかしい。
- ・みずしま財団で活動に参加させてもらって、どれも楽しかった。思った以上に未熟で、知識に偏りがあることが分かった。
- ・大人や高校生が積極的にかかわろうとしている人がいるのがうれしかった。暗いというイメージを変えようとして頑張っている、憧れの存在の大人がいて、これから大人になるうえで、夢を語っていいんだなということが分かった
- ・水島の歴史を学ぶことが面白かった。どうやって伝えるかがむづかしかった。

Q6 他の地域にどう伝えるか

- ・パーキングデーに参加して、自分たちでやってみたいと思ったけれど、むづかしいなと思った。

Q7 地域での学びを通じて、自分自身のキャリア（進路）に今後どのように生かしていきたいですか？

- ・市役所で働きたい。行政から同働きたい
- ・まだ明確には決まってないが、街づくりに関心がある。どんな職業についても、住民の目線を大切にしたい。
- ・日本史の高校教師になりたい。古墳や公害の地域資料が豊富なので、地元愛をはぐくむ授業ができるようにしたい。
- ・歴史にかかわる仕事をしたい。過去を現在未来につなげることが大切。

Q8 水島の街について、いろいろなことを調べて知らないことをたくさん知ったと思います。将来、水島の街がどのような姿であってほしいと思いますか？また、これからみなさんは高校や大学を卒業された後、全国どこに住もうと地域を作るのはみなさん自身です。水島の街とどのように関わっていききたいですか？

・地元の人に愛される地域であってほしい。僕が話を聞いたのは、地元が好きという人が多かった。子どもたちは誇りがあるという人が少ないかもしれない。子どもたちにも誇ってもらえるような街になっていけばいいと思う。

・過去に大気汚染が起きたというのは知っていただけ。そこから豊かな街になって、多くの人がかかわっている。豊かな街で生物も共存していける町であってほしい

・社会人になったら、水島を一度出たい。東京のスクランブル交差点を歩いてみたい。外から水島を見て、改善する点が見えるようであってほしい。帰ってきたいと思えるような水島であってほしい。

・豊かな歴史と文化を持つ街であってほしい。新幹線も空港もあってアクセスもいい。岡山に立ち寄った際に行ってみたいとか、若い人が住みたいと思える町であってほしいと思う。岡山に残っていれば、水島をもりあげていきたい。

コメント①

岡山大学 岩淵泰先生

高校生・大学生が魅力を開拓してくれる。ツアーもみんなと一緒にいったら楽しいんだろうと思う。皆さんを楽しんでいる姿を見ながら共有したい。大人がどう受け止めて行動することが大切なんじゃないかと思う。「環境に関心を持ったのは専門の大人がかっこよかった」というのも、うれしい。岡山出身で、大阪に出て、倉敷で就職したいというのはうれしい。岡山を出るなら、世界に出てほしい。水島で世界のことを考えることができるのではないかなと思う。ここで勉強したことを挫折せずに実現をしてほしい。

日本全国からツアーの参加者が来ている。コンソーシアムが始まったときにはこういう大きな流れになるとは思っていなかった。地道に活動していることで大きな渦になった。若者の話がとても面白かった。

コメント②

ミズシマ盛り上げ隊 野呂家徳さん

今日はよく出てきた「楽しい」という言葉。大人になっても続けていけるのは「楽しい」ということ。いろんな人と知り合えて、楽しいというのは、僕も同じ。今日もみんなの話を聞いて、面白かった。活動していても同じことはなくて、やればやるほど面白い。ここにきている人たちは積極的に参加していると思うが、街の人たちにも面白いからやらない？と広がっていけばと思う。

アンケート（一部紹介）

みずしま滞在型環境学習コンソーシアムの今後に期待することは？

・"本活動が地域に浸透することを期待します。取り組んでいる内容は地域にとって重要だと思います。また、知る人が増えれば広がり、アイデアに繋がると思います。

情報発信に当金庫も協力したいです。"

・このような会や活動を続けていくことで、若者の財産や知識といったものが伝えられるので、水島の課題が認知され続けるので、解決ができるだろうということ。

・中学生・高校生の部活動のスポーツ系、文化系、その次にコンソーシアムに参加する！！
ぐらいに地元の学校に深く関係して若い世代が早い時期に地元の博士になる！！ような存在になっていただきたい。

活動交流会で印象的だったことは何ですか？

・思った以上に水島の課題が多かったということや、行われている活動が多かったということ。

・学生さんが地元のおじいちゃんおばあちゃんと会話をして頂いてることがよいことだと。
16年～18年の生涯では分からないことを80年の先輩から伺う事は非常にエコでもあるが直に感じられることでもある。

・様々な人がなコンソーシアムでの活動に関わっていると知ったこと。自分が活動する時にも色々な人に手助けしてもらった。それ以上に水島をよりよくするため多くの人に知ってもらい取り組みに個人や企業が関わっていて驚いた。この交流会に参加しなければたくさんあったので参加することが出来良かった。

その他

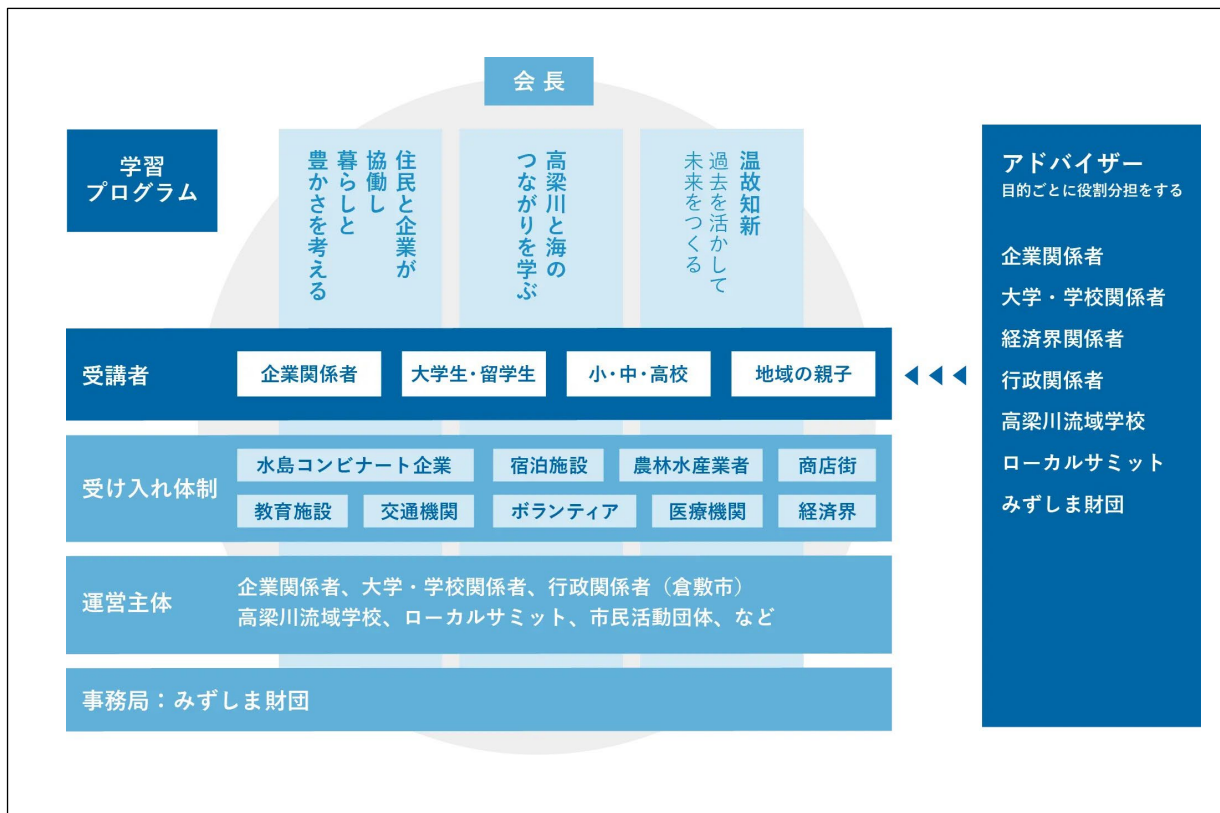
・高校生・大学生と若い力が地域に関わっていることを知り大きな力を感じました。組織、個人として微力ながら力になりたいと思いました。

資料 みずしま滞在型環境学習コンソーシアムについて

名簿（2023/2 現在）

会長	萩原 邦章	萩原工業（株）相談役、（一社）岡山経済同友会 顧問
副会長	古川 明	（一社）高梁川流域学校 理事、ミズシマ・パークマネジメント Lab. 代表
委員	伊東 香織	倉敷市 市長
委員	井上 峰一	倉敷商工会議所 会頭、株式会社いのうえ 代表取締役社長、学校法人 関西学園 関西高等学校 理事長
委員	榎野 博史	岡山大学 学長
委員	岡 浩二	水島の未来を考える会 会長
委員	尾崎 浩子	水島おかみさん会 会長
監事	大久保 憲作	（一社）高梁川流域学校 相談役、倉敷木材（株） 代表取締役会長
監事	梶谷 俊介	ローカルサミット in おかやま倉敷 実行委員長、（一社）岡山経済同友会代表幹事、岡山トヨタ（株） 代表取締役社長
企画・運営事務局	吉田 淳一	萩原工業（株）取締役執行役員事業支援部門長兼総務部長
	坂本 万明	倉敷商工会議所 専務理事
	中濱 崇	倉敷商工会議所 理事・事務局長
	高橋 香代	岡山大学理事（総務・評価・企画担当）・副学長
	三村 聡	岡山大学地域総合研究センター センター長・教授
	岩淵 泰	岡山大学地域総合研究センター 副センター長・准教授
	錫木 晋二郎	倉敷市 企画財政局 企画財政部 企画経営室
	福田 憲一	（公財）みずしま財団 代表理事（副理事長）
	藤原 園子	（公財）みずしま財団 事務局長
	塩飽 敏史	（公財）みずしま財団理事・（一社）高梁川流域学校 監事
	林 美帆	（公財）みずしま財団 研究員

組織図



みずしま滞在型環境学習コンソーシアム活動報告書

2022年度

発行日：2023年3月

発行者：みずしま滞在型環境学習コンソーシアム

事務局：公益財団法人水島地域環境再生財団（みずしま財団）

連絡先：〒712-8032 岡山県倉敷市水島西栄町 13-23

TEL086-440-0121 FAX 086-446-4620 webmaster@mizushima-f.or.jp